

～目的と手段とを適切に紐づけ、「デジタル」と「アナログ」の長所を最大限生かすために～

改正省エネ法も見据えた

遠隔監視・自動化等、「次世代型エネルギー管理」への対応も視野に入れて――

計測と見える化の手法

「省エネ法：工場等判断基準」では、エネルギー管理のための計測（及び記録）が求められています。その意図を「蓄積されたデータからエネルギー使用の現状を把握し、ムリ・ムラ・ムダがないか評価し、改善（最適化）するため」と定義するならば、そのためのデータの把握が必要不可欠であることは明白です。すなわち、省エネという「目的」の実現には、そのデータから改善活動のネタが抽出できるのか、当該データの分析等を通じ、今取り組んでいる改善活動を適切に評価できるかなど、「手段」としての計測の価値を少しでも高める意識が必要です。また、50%の再エネは改正省エネ法では70%の評価になる動きもあります。

本講座では、斯様な視点——「**使える計測（及び記録）で現場を見える化!**」をキーワードに、省エネ推進に必要な変数、計測頻度と経済性、計測技術や計測点、そして集計・整理・分析の着眼点などを、「デジタル化」といった昨今のトレンド・事例も意識し、平明に解説します。

講師：（一財）省エネルギーセンター 省エネ技術本部 技術支援センター 技術普及部 マネージャー 鈴木 伸隆

● 主なカリキュラム ●

講義時間は約4時間38分です。

視聴期限は1ヵ月で、その間何度でもご視聴いただけます。

0. 改正省エネ法をも見据えた基本的視点

90分

●エネルギー消費の「根本的構造」を考える ●改正省エネ法施行と計測・見える化 ●新たな「外的要因」の認識 ●非化石エネルギーの管理と計測

1. 計測に着目したエネルギー管理の基礎

89分

●計測の実務：「これまで」 ●計測の実務：「これから」
●計測の実務：「これから」

2. 計測の要否の見極め方

61分

●そもそも論：「計測」の要否に関する配慮事項（例） ●省エネ推進に必要な「デジタルデータ」取得法 ●「計測が不可欠な設備」を考える

3. 省エネのための計測及び記録の技術

21分

●絶対に忘れてはいけないコト ●計測データの「目視」
●電力計測データのフル活用

4. 計測データの見える化事例

17分

●「影響別」見える化 ●「見える化」の工夫 ●「見てるか?」

● 受講要領 ●

● **受講条件**：ZOOMによる動画配信講座です。インターネット環境の整ったパソコンやタブレット等をご用意ください。必ず事前に**右記の試聴用動画**が試聴できる事をご確認の上、お申し込み下さい。なお、Web会議・セミナーのアプリ等のダウンロードの必要はございません。



必ず事前にZOOMの試聴を行って下さい。



試聴用のパスコードはtest#2023です。

● **受講料** (税込)：
一般：27,500円
賛助会員：22,000円

※ エネルギー使用合理化専門員、エネルギー診断プロフェッショナル・省エネエキスパートを取得された方は賛助会員料金でご受講いただけます。

● **申込方法**：右の二次元コードをクリックし、表示された申し込みフォーム（Googleフォーム）よりお申し込みください。もしくは二次元コードをスマホなどで読み込んで申し込みフォームを表示させて下さい。

お申し込みはこちらの二次元バーコードをスマホ等で読み込むかクリック(タップ)して下さい



● **注意事項**：お申し込み後、自動返信いたします「お申し込み確認メール」にお振込み指定口座を記載してございます。口座へのご入金を確認させていただきましたら、パワーポイント画面集（印刷物）の郵送、及び録画配信のご案内をメールでお送りします。（特にご要望のない限り、請求書は送付いたしません。

講座の紹介動画をご覧ください！



なお、動画のご視聴はお申し込みいただいた方に限らせていただきます。

受講料割引特典がご利用いただける賛助会員へのご入会をご検討下さい。

⇒ <https://www.eccj.or.jp/member/index.php>